

技術センターはプロ集団

理事・副学長 山根 八洲男



技術センターの職員が扱う対象は、情報といった形のないものから、金属・ガラス・木材といった形あるもの、動植物、さらに実習などに来る学生を加えると、非常に広範囲にわたります。したがってセンターに所属する職員も広い範囲の分野の専門家から成り立っています。人は往々にして自分の分野の考え方の枠にとらわれがちです。私自身の専門である工学を例にとると、「与えられた初期条件・境界条件のもとに最適解を見つけてそれを実現する」という考え方が身にしみています（もちろん教育ではこのような考え方は使えませんが……）。生物を相手にする集団あるいは情報を相手にする集団ではまた違ったアプローチがあると思われます。技術センターの「難しさ」あるいは「おもしろさ」は、基本的な考え方が異なる（可能性がある）人々が一つにまとまって集団を形成していることにあるかと思われます。様々な意見の相違の中から新しいものが生まれてくると信じています。

分野は広い範囲にわたりますが、共通する柱は「プロ集団」であるということでしょうか。プロ集団として最も重要なことは人材の育成、即ち技術・技能の移転・伝承をどう担保するかということではないかと思えます。技術・技能は本や資料などの記録を通して移転伝承できるものと（形式知）、記録では伝承が困難で直接人から人へ伝えられることにより獲得されるもの（暗黙知）に分類することができます。実際に現場で役に立っている技術・技能は、形式知と暗黙知が混ざり合ったものと思われるのですが、いずれにせよ、自分自身の技術技能を高めるとともに後継者をどのように育てるかが問題です。

私たちは技術・技能の移転・伝承をテーマに研究を続けていますが、私の専門の機械加工を例にとると、一人前（中核的技術者・技能者）になるのに短いもので10年、長いものでは20年近くかかるものもあります。これは毎日ほぼ同じ仕事の繰り返しである生産現場での話ですから、大学のように必ずしも同じものの繰り返しではない場合、もっと長くかかるかも知れません。「プロ集団」とはいつでもプロスポーツのように自分の技は自分で磨くという個人責任制ではなく、チームとして育てることを是非お願いしたいと思えます。

（平成21年4月 記）